

うえすと老上

コロナと暑さに負けない。ゆるやかに活動再開!



『^{かた}た^たの^{らく}らん^びら^ゆきの^こじょう^{ふう}こう^ここの^{ところ}おさまる^おおえ^{けい}こう堅田の落雁 比良の雪 湖上の風光 此の處に収まる〜♪』(漢詩「近江八景」大江 敬香)

センター内に大きな声が響き渡ります。

老上西まちづくりセンターの自主サークル「詩吟クラブ」は、7月から活動を再開しました。

「おなかの底から声を出すと体中の筋肉を刺激します。コロナの感染拡大で運動不足になりがちな今、詩吟はまさに「適度な運動」です。胸とおなかいっぱい空気を吸い込んで、思いっきり声を出す快感は、何とも言えません。ストレス解消にもなりますよ」(講師 金川 葵^き泉^{せん}さん)

現在、12名で活動中、新規会員を募集しています。お気軽に見学にお越しください。

(第1,2,3の木曜日、第4週の月曜日に活動しています)

**指定ごみ袋引換券
の有効期限迫る！
交換はお早めに！**

草津市指定ごみ袋引換券での「引き換え有効期限」は、9月30日(水)です。期限を過ぎると、引き換えできなくなります。まだお手元に引き換えていない券がある方は、早めに老上西まちづくりセンターで引き換えをお願いします。



『暑さやコロナにや、負けへんでえ。』

8月19日、最高気温が37度を越えたこの日。学区内の田んぼでは、稲刈りに向けた草刈りがいつものように行われていました。

撮影者：日野 勝也

編集・発行 老上西学区まちづくり協議会(老上西まちづくりセンター)
〒525-0066 草津市矢橋町 526 番地 1
TEL 565-1995 FAX 565-2000
URL http://www.machikyou.jp/oikami_nishi/
E-mail: oinishi@machikyou.jp



老上西学区 7月31日現在
人口 8,678 (+9)
世帯数 3,306 (+3)
(6月30日との比較)



福祉のページ



老上西学区地域の皆様へ

老上西学区社会福祉協議会
会長 服部 勝義



世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス、感染者数が日々発表される中、各種団体が企画・計画されていた行事・イベントなどが、中止や延期され「自粛」ムード満載で新年度を迎えました。

国による「非常事態宣言」が解除され、徐々に社会活動、経済活動が動き始めたところで再び感染拡大が見受けられる事態になっています。

老上西学区社会福祉協議会といたしましても、今後の事業をいかに再開させるか社会情勢を見極め、新型コロナウイルスの感染リスクを減らす方法を考えながら活動していきたいと考えています。

大変厳しい状況の中、高齢化は進んでいます。昨年度、新浜地域で実施した「地域声かけ訓練」を今年度も実施したいと考えています。これは、認知症で道に迷った方に声をかける模擬訓練です。地域の福祉委員・民生児童委員が行政や包括支援センター、各介護施設のご協力を得て実施してまいります。

新型コロナウイルスは今後無くなるものではなく、共存していかなければならないものです。ワクチンや特效薬の開発が待たれるところですが、今後開催する事業につきましても感染対策を十分に施したうえで実施してまいります。マスクを着けなくても良い時期が来るまで、私たちに「今できる対策」を十分にとったうえで、この事態を乗り切りましょう！

社会福祉協議会

令和2年度評議員会は書面評決となり、提案議案すべて承認されました。

敬称略

承認された議案

第1号議案	令和元年度活動報告
第2号議案	令和元年度決算及び会計監査報告
第3号議案	役員異動
第4号議案	令和2年度活動計画
第5号議案	令和2年度予算
第6号議案	会則の一部改正

令和2年度新役員

会長	服部 勝義	(再任)
副会長	橋本 光男	(前事務局長)
副会長	小川 正	(再任)
副会長	岡本 耕一	(//)
事務局長	藤田 耕	(前事務局次長)
会計	小寺 喜彦	(前事務局員)
事務局員	田村 久枝	(再任)
事務局員	中西 ふみ子	(//)
顧問	永元 種吉	(前副会長)
常任評議委員	芝田 敏夫	(//)

*他の常任評議委員は異動・変更ありません。



社会福祉委員会

敬称略

令和2年度福祉委員会 本部役員

会長	小川 正
副会長	林 由香理
会計	塚越 喜子
事務局員	山本 照夫
事務局員	小寺 喜彦
相談役	濱田 和一

ボランティアグループ たすけ愛隊『ママの手』発足！

まち協 福祉部会の活動を支援していきます。

“暖かく包み込む
やさしく支える手”

代表 金川 美鈴



うえすと老上 ~こ~んな人~



「感染対策について」

社会医療法人 誠光会 草津総合病院
医療安全管理センター 感染対策室
師長 高橋健太さん

人類と感染症の関わりの歴史は古く、人類の誕生とともに感染症との闘いが始まったと言われています。感染症の原因である細菌やウイルスなどの病原体が発見されたことにより、感染症の予防・治療法が劇的に進歩しました。人類と病原体が絶妙なバランスで共存することにより、病原体がもたらすバリア効果や腸内環境の維持・改善などの恩恵を私たちは受けていることを心に留めておいていただきたいです。

感染＝感染症ではありません。感染が成立するには、主に「病原体」「経路」「宿主(人間)」の3つの要因が必要です。感染症を発症するには感染が成立し、免疫と病原性のバランスが崩れたときに発症します。このことから、感染予防対策の意義は感染が成立しないように経路を遮断することにあります。この原則を理解し、目に見えない病原体に対し、「標準予防策」と呼ばれる対策を徹底することが大切になってきます。当院の職員にもこの原則を改めて徹底し、推進しているところです。

標準予防策の基本としては、主に「手洗い」「个人防护具(手袋・エプロン・マスクなど)の適正使用」「環境清掃」「ゾーニング(清潔不潔区分)」を徹底することにあります。職員をはじめ、患者さまや面会の方に対しても徹底して推進することでお互いの安全を確保し、感染症が発生したとしても濃厚接触者にならない対策をとっています。

感染対策について組織全体で理解し、お互いに指摘し合える環境を作り、全ての人を感染症から守れるように協力していくことを心がけています。

新型コロナウイルス感染症の終着点は、人類もウイルスも生き残り、人類の6割以上が免疫を持つこと(集団免疫)と考えられます。感染症法上の対応としては、指定感染症でなくなり季節性のインフルエンザ対応と同様になることで通常の感染対策となります。

地域の皆様には、手洗い・マスクの適正使用・環境清掃・健康観察を心がけていただき、症状がある場合は「帰国者接触者相談センター」へ相談いただくようお願いいたします。手洗いは流水と石ケンでの正しい方法を身に着けていただくことが重要です。マスクには表裏上下があります。そして口だけ覆って鼻がマスクの外に出ている「鼻マスク」や、鼻も口も覆われていない「顎マスク」にならないように着用してください。家庭では消毒にこだわるより、汚れの除去を目的に清掃してください。家族や地域の中で声をかけ合い、気にかけて合うことで健康観察の強化をお願いいたします。

当院は滋賀県からの要請を受け、草津栗東医師会・大津市医師会と協力して運営する「地域外来・検査センター」を開設しております。これにより院内だけでなく、地域の方が速やかにPCR検査を受けて頂けるようになりました。症状があれば最寄りの医療機関を受診して頂き、当院を紹介して頂ければPCR検査を受けることができますのでご活用ください。



地域外来・検査センターの開設



入口にサーモグラフィカメラの設置



ビニールカーテンが設置された受付

老上西小学校

老上西学区地域協働合校通信



老上西 農業合校

老上西小学校では毎年、老上西農業合校の協力を得て、栽培活動を行っています。しかし、今年の春の活動時期は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、学校は休校となり、子どもたちが活動を行うことができませんでした。

それでも、「観察や収穫ができるようにしておきたい」との思いから、農業合校や地域の方の協力を得て、1年生=さつまいもの苗植え、2年生=夏野菜の苗植え、5年生=田植えを行いました。

収穫は子どもたちと一緒に活動できることを願っています。



さつまいも植え (5月14日)

コロナで学校がお休みでした。いつもなら5月の初めに老上西農業合校の畑に植えに行くのですが、今年は学校の花壇に植えました。農業合校担当の1年生の先生で植えました。

でも子どもたちには、苗から植えてほしかったです。



田植え (5月19日)

毎年、子どもたちが手植えでやっていたのに、今年は残念ながら機械植え。少しだけ残して、学校の先生



と老上西まち協の人が来てくれて植えました。

みんなめったにしないことなので、喜んで植えています。

あるとき、ヒッチハイカーに出会いました。行き先のボードを見ると、そこには「ヒッチハイク」と書かれていました。心の中でつぶやきます。「どこに行きたいのか?」。その言葉では、ヒッチハイクという行為は分かるけれど、目的地が分かりません。「どこに行きたいのか?」という言葉はそのまま私に返ってきます。私はどこに向かって生きているのかがはっきりしているのだろうか、と。

怠けるといいますと、何もしないという意味に受けとりますが、そうではありません。

私の一文字



谷 大輔さん

(矢橋町 良覺寺住職)

生きる方向性を見失った在り方を怠けるというのです。私たちは毎日しなければならないことを一生懸命やっているつもりです。仕事、育児、家庭のこと、地域のこと等々、いそがしく何かをしているけれど、私たちに生きる方向性はあるのでしょうか?

「怠」という言葉は、多忙の中で大事なことを見失いがちな我々の在り方を、それでいいのかと問いかけるとうい意味があるのです。

脳活クイズ

鳩尾

身体の一部を指す言葉だそうですが、さて、何と読みますか?

わかった方は、まちづくりセンターまで応募ください。(答え、氏名、住所、電話を明記)

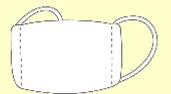
正解者の中から抽選で2名様に500円分のQUOカードを差しあげます。×切: 9/30

正解は次号(12/15号)で。

おいにし川柳

良薬は腹の底から
大笑い

【日・々・雑・感】



コロナ禍で生活必需品となったマスク。無くしては外には出られません。手作りのマスクに花模様の人を見掛けるとハッとします。マスクには白いという観念があるのですね。国から配布されたいわゆる「アベノマスク」をしている人には出会った事はありません。総理も最近変えられたとか…。

昨年末の新聞の小さな記事が忘れられません。『武漢でかつて見た事がない肺炎の患者が発生!』それから8カ月余り、こんな事になるとは誰が想像したでしょう! (H)